

【教育-4】 事後評価

箕輪小学校整備事業(旧日吉台小学校第二方面校(仮称)整備事業)

(教育委員会事務局)

CITY OF YOKOHAMA

横浜市公共事業評価【事後評価】

【教育－４】

箕輪小学校整備事業

旧 日吉台小学校第二方面校(仮称)整備事業

教育委員会事務局 学校計画課・教育施設課

令和７年10月31日



横浜市

これまでの経緯

これまでの経緯

1 評価状況

今回評価

評価段階	事前評価	事後評価
付議状況	平成27年度 (第2回)	令和7年度 (第2回)
意見具申	なし	
事業費	約83億円	約78億円
事業期間	平成28年4月～令和2年2月※	平成28年4月～令和2年9月

※このページ以降、事前評価時での情報においても平成32年ではなく令和2年の表記とします。

これまでの経緯

2 前回までの主な意見と対応状況

主な意見（要約）	対応	本資料での 該当ページ	備考
綱島駅寄りの開発地区での整備は検討しなかったのか。	既に当該開発地区の土地利用の大半が決定しており、学校整備に必要な面積（10,000㎡程度）が確保できなかった。	なし	完了

目的及び事業概要

目的及び事業概要

【目的】

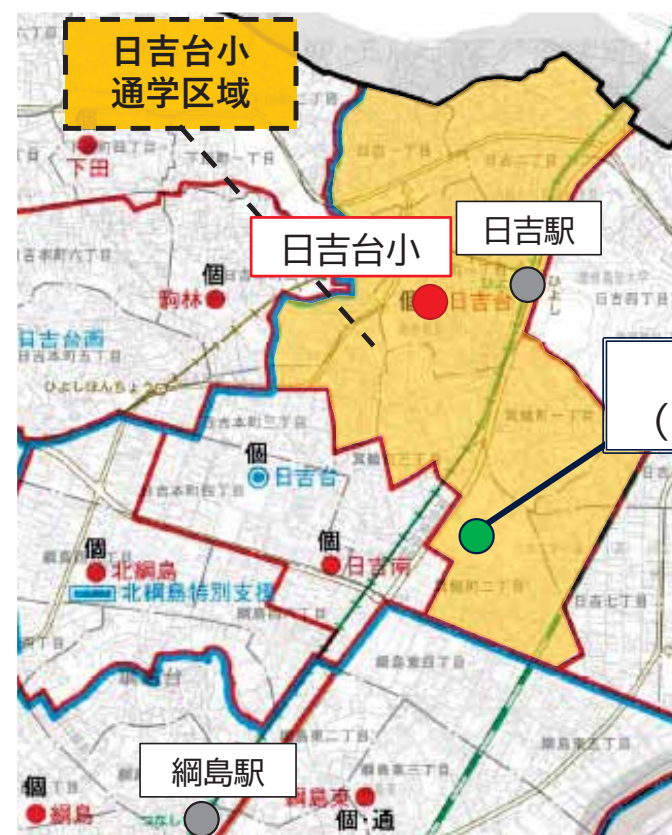
日吉台小学校の児童数増加に伴う教室不足の解消を図る
ため、小学校（箕輪小学校）を新たに整備しました。

目的及び事業概要

【参考】日吉台小学校の概要（事前評価当時）

■所在地	港北区箕輪町二丁目 707番 3 他
■創立年月日	明治 6 年
■校地面積	6,903m ²

■施設状況	
・ 普通教室	最大25教室
・ 個別支援教室	2 教室
・ その他：	音楽室等の特別教室や 職員室等の管理諸室、 体育館、プール、給食室等



箕輪小学校
(旧第二方面校)

目的及び事業概要

【事業概要】

日吉台小学校周辺の住宅開発

通学区域内のマンション増加に伴い、
将来的に日吉台小学校で全ての児童を
受け入れることができなくなる見込みとなる。

《不足教室対策検討》
校舎の増築
→校地面積が狭いため、
対応困難

関係区局によるプロジェクトで検討

令和2年4月
開発エリア内の一部に、新設校を整備

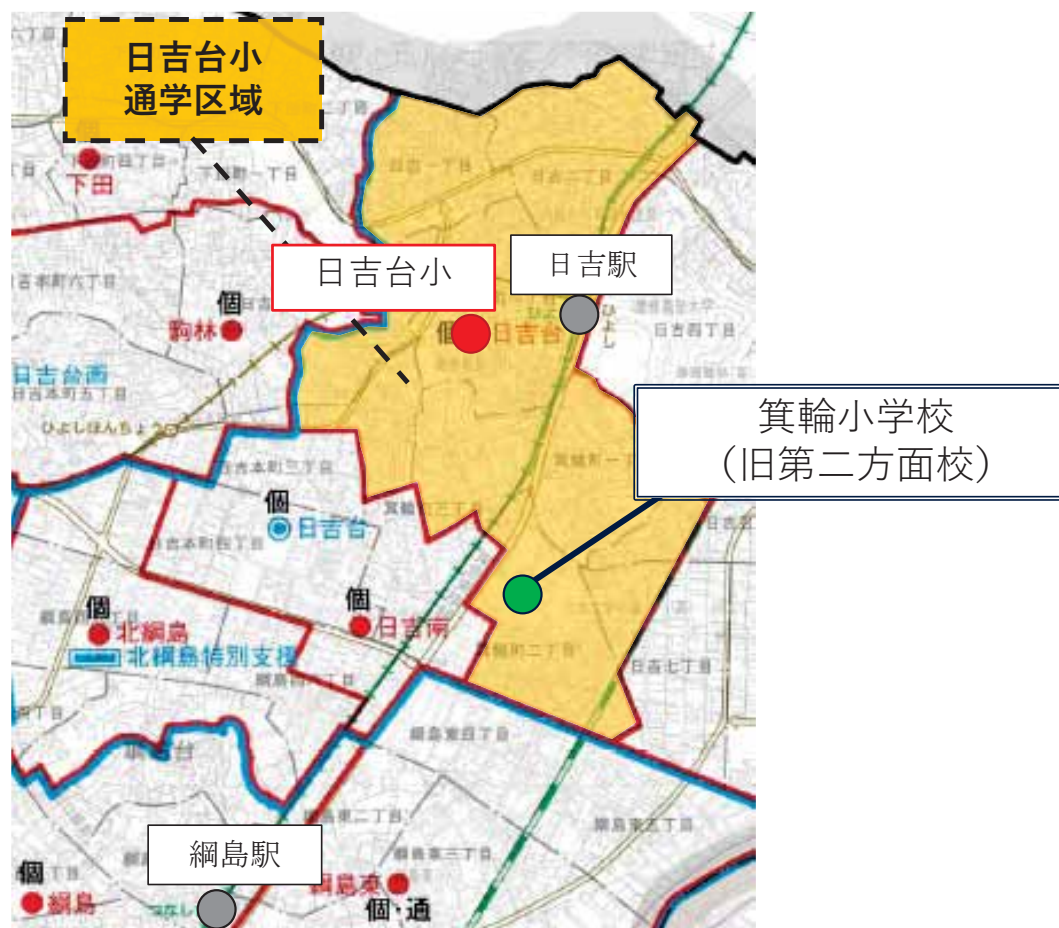
目的及び事業概要

【整備概要】（箕輪小学校）

整 備 概 要	
事業期間	平成28年4月～令和2年9月
開校	令和2年4月
敷地面積	9,500㎡（建物敷地5,949㎡＋グラウンド3,551㎡）
延床面積	10,442.90㎡ ※学校施設のみ
構造	R C造
規模	地上5階建て
整備諸室	一般保育教室：31CR、個別支援教室・特別支援教室：3CR、 特別教室：7CR その他：管理諸室（職員室等）、体育施設（屋内運動場、プール等）、給食室等

目的及び事業概要

【整備概要】



要因の変化・事業計画の変更の経緯等

要因の変化・事業計画の変更の経緯等

【事前評価と事後評価の比較】

		事前評価	事後評価
事業期間		平成28年4月～令和2年2月	平成28年4月～令和2年9月
総事業費	総事業費 (①+②)	約83億円 (うち国費7.6億円)	約78億円 (うち国費11.1億円)
	①用地取得費	総事業費に計上	約40.5億円
	②建設費	総事業費に計上	約37.5億円
	内訳 ・工事費 ・校地整備費	— —	約37.0億円 約0.5億円
建物規模		敷地面積：約9,700㎡ 構造：RC造	延床面積：10,442.90㎡ 建築面積：5,949㎡ 構造・階数：RC造・5階建て

要因の変化・事業計画の変更の経緯等

【事前評価から事業完了時の変更点】

1. 事業期間

事前評価

平成28年4月～令和2年2月

事後評価

平成28年4月～令和2年9月

（変更理由）

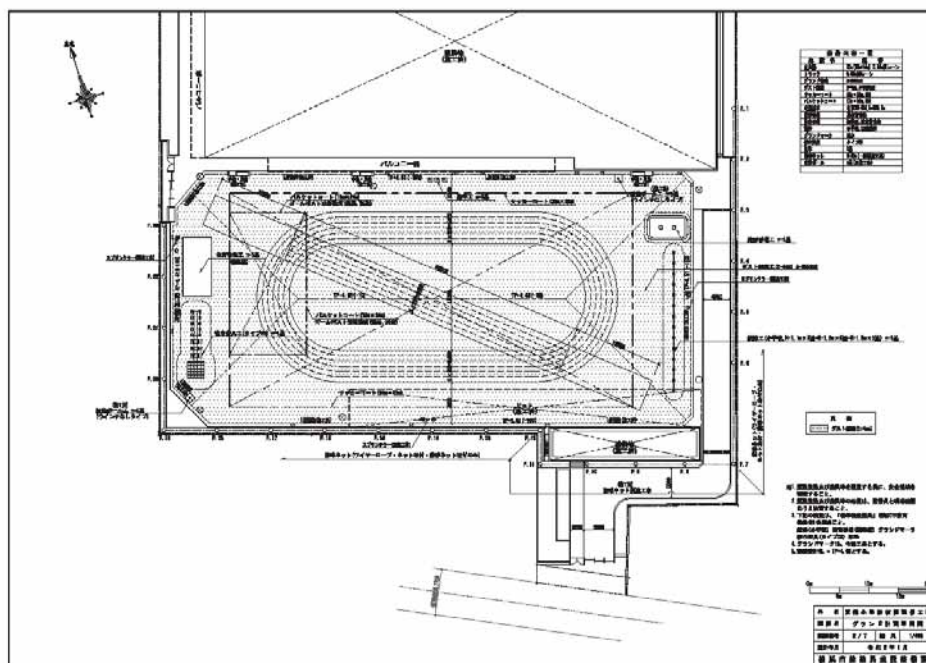
箕輪小学校整備におけるその他工事の資材置き場としてグラウンド予定地を使用していたため、当初並行して行う予定であったグラウンド整備を校舎完成後に行うこととしたため。

なお、学校は予定通り令和2年4月に開校し、グラウンド整備が完了するまでは、体育の授業等は体育館で実施しました。

要因の変化・事業計画の変更の経緯等

【事前評価から事業完了時の変更点】

1. 事業期間（グラウンド整備図面・写真）



要因の変化・事業計画の変更の経緯等

【事前評価から事業完了時の変更点】

2. 総事業費

事前評価

約83億円



事後評価

約78億円

	変更の主な理由	増減額
電気・空調工事	入札に伴い、当初想定より工事費が下がったため	－1.4億円
実施設計	設計内容の変更に伴い委託費が減少したため	－0.1億円
用地取得	事前評価時点では、民間事業者と用地取得内容について調整中であったため	－3.5億円
合計		－5.0億円

事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

1 教室不足の解消

新設校を整備することにより、本件の目的である日吉台小学校の児童数増加に伴う教室不足の解消を図りました。

事前評価時推計（H27）

日吉台小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
児童数	615	655	683	726	749	1,088	1,180
学級数	19	19	20	21	23	31	35

普通教室として当時使用可能な教室数：25CR

H27はH27年5月1日時点の実数。H28以降はH27年度義務教育人口推計に基づく推計値。

事業の効果の発現状況

令和7年5月1日までの実数値（各年5月1日現在実数値）

新設校開校

日吉台小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
児童数	615	602	643	707	717	509	510	530	500	482	488
学級数	19	19	20	20	21	18	18	18	18	18	18
箕輪小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
児童数	—	—	—	—	—	584	726	902	1,007	1,113	1,191
学級数	—	—	—	—	—	19	23	28	32	35	37
日吉台小 + 箕輪小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
児童数	615	602	643	707	717	1,093	1,236	1,432	1,507	1,595	1,679
学級数	19	19	20	20	21	31	35	42	44	47	51

箕輪小学校の開校（R2以降）日吉台小学校における教室不足が解消されています。

事業の効果の発現状況

2 施設面

(1) 安全・安心・安定性・快適性

日吉台小学校の通学区域内における大規模住宅開発は令和2年に入居が始まりましたが、その時点で見込まれた教室数不足等の危機的な状況は回避しました。大規模校として運営の困難さを解消するため、明快な動線計画、死角の無い直線廊下、昇降口を分散配置など、混雑を緩和し、限られた敷地で安全・安心に配慮したコンパクトで整形な平面計画としました。

(2) 将来の用途変更への対応

将来用途変更を行う予定はありません。

事業の効果の発現状況

2 施設面

(3) プール施設等の合理化

事業開始当初から合理化等については検討していません。

(4) コスト縮減の取り組み

ガラスを複層ガラスとし、断熱性能の向上、暖房負荷の軽減を図ることでランニングコストを低減（640,000円/年）しました。また、光庭を活用した自然通風、自然換気を利用し、冷暖房使用を短縮しイニシャルコストを低減します。

事業の効果の発現状況

3 地域面

地域交流室や放課後キッズクラブのための部屋を整備しました。

4 防災面

(1) 地域防災計画での位置づけ

箕輪小学校は地域防災拠点として指定されています。

(2) 浸水想定状況

津波による浸水予測の区域ではありません。

洪水、内水、高潮の浸水予測はそれぞれ0.5～3m、2～20cm、0～3mです。
なお、屋外付帯施設として、雨水貯留槽を設置し浸水対策を行っています。

(3) 土砂災害特別警戒区域指定の有無

土砂災害特別警戒区域の指定はされていません。

事業の効果の発現状況

3 環境への配慮

建物における環境配慮

（１）緑化率を35%とし、敷地周囲及び屋上緑化を施すことでヒートアイランド抑制に寄与します。

（２）建物における環境配慮・横浜市公共建築物環境配慮基準に準拠することで、環境負荷が軽減されます。（CASBEEの結果よりライフサイクルCO2排出量13%削減）

・壁やロッカーなどの木質化、照明器具のLED化、高効率空調設備の導入、PPA事業を見込んだ設備配置等を実施しました。

（校舎棟 BEI(※1)= $0.35 \leq 0.6$ （設計時）、CASBEE 横浜 A ランク（CO2排出量24%削減））

※1 BEI：建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に基づき定められた建築物エネルギー消費性能基準で、基準建築物と比較した時の設計建物の一次エネルギー消費量の比率。横浜市の公共建築物における環境配慮基準（R7 改正）では $BEI \leq 0.6$ 。

・「横浜市の公共建築物における木材利用の促進に関する方針」に基づき、イニシャルコスト・維持管理コストに配慮したうえで、積極的に木質化を図りました。・木材利用を積極的に促進し、県産・地域産木材の流通材利用、内装材、家具などに使用を検討しました。

対応方針

対応方針

【今後の見通し】

当初の目的である日吉台小学校の教室不足は解消されました。

【改善措置】

特にありません。

今後に向けた検討項目・改善点 (教室不足への対応について)

今後に向けた検討項目・改善点

社会情勢の変化への対応が求められる

理由① 土地利用転換

近年、駅前などの利便性の良い土地に限らず、北部、臨海部における工場や事業所の撤退等による土地利用転換に伴い、一部地域において集中的に人口が増加している状況がある。

理由② 住宅の需要状況の変化

従来子育て世帯が入らないだろうと想定していた間取りに子育て世帯が入ってくるケースが見られ、以前とは需要状況に変化が見られる。

このような状況を踏まえ、推計値の精度をあげるため、推計値に反映する児童・生徒出現率（急増要因出現率）の算出方法を見直しました。

今後に向けた検討項目・改善点

【見直し方法】

① 集合住宅のデータ収集

近年の集合住宅の購入層の属性等について既存データ・文献等から情報を収集しました。

② 児童・生徒数の推計値の検討・検証

上記データをもとに、地域ごとの児童・生徒数の推移について検討・検証を実施しました

新たな算出方法を活用しながら今後も集計結果を適宜検証し、児童・生徒にとって最適な教育環境の提供に努めてまいります。

【関連重要事業の報告（審議外事項）】

箕輪小学校の増築について

箕輪小学校の現状と今後の見込みについて

日吉台小学校における教室不足が解消された一方で、新たに開校した箕輪小学校は実際の児童数が推計値を大幅に上回り、教室不足対策のために増築が予定されています。

箕輪小学校は当初、最大31学級の想定で、令和2年4月に19学級で開校しました。しかし現在既に37学級となり、今年度の推計では46学級まで増加する見込みとなっています。

令和7年度箕輪小学校
児童数・学級数推計値（一般学級）

※令和7年度義務教育人口推計より引用。
※令和7年度値は5月1日現在実数値。8年度以降は推計値。

	保有教室	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
児童数	37	1191	1264	1327	1394	1476	1491	1475
学級数		37	40	42	43	45	46	45

箕輪小学校の教室不足に至る要因について

【整備後早期に教室不足が見込まれる理由】

- ・ 令和 2 年度の開校後に35人学級の実施が決定されたこと。
- ・ 近隣の大規模集合住宅の出生数が非常に多く、当時の出生数の予測※を大幅に上回ったこと。
- ・ 計画時に把握していなかった新築物件による児童数の増を、新設校の学級数の算定に反映できなかったこと。

※出生数の予測は、急増要因出現率（児童・生徒出現率）より算出。
急増要因出現率…新築住宅100戸あたりの0歳～中学3年生の出現率を、住宅の種類や面積、立地ごとに分類し、実際の平均値から算出した指標。

対応状況と予定

【対応方針】

新たに大幅な教室不足が見込まれることから、解消のため校舎を増築します。

【対応内容と予定】

- 内部改修** →令和８年度までに内部改修で普通教室を31教室から42教室まで増やしています。（事業費2.3億円（概算））
- 増築工事** →令和９年４月の共用開始に向けて、普通教室12教室を含む増築校舎を整備します。
（事業費19億円（概算） R5基本設計、R6実施設計、R7着工、R9供用開始）

【関連重要事業の報告（審議外事項）】

箕輪小学校増築校舎の概要

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

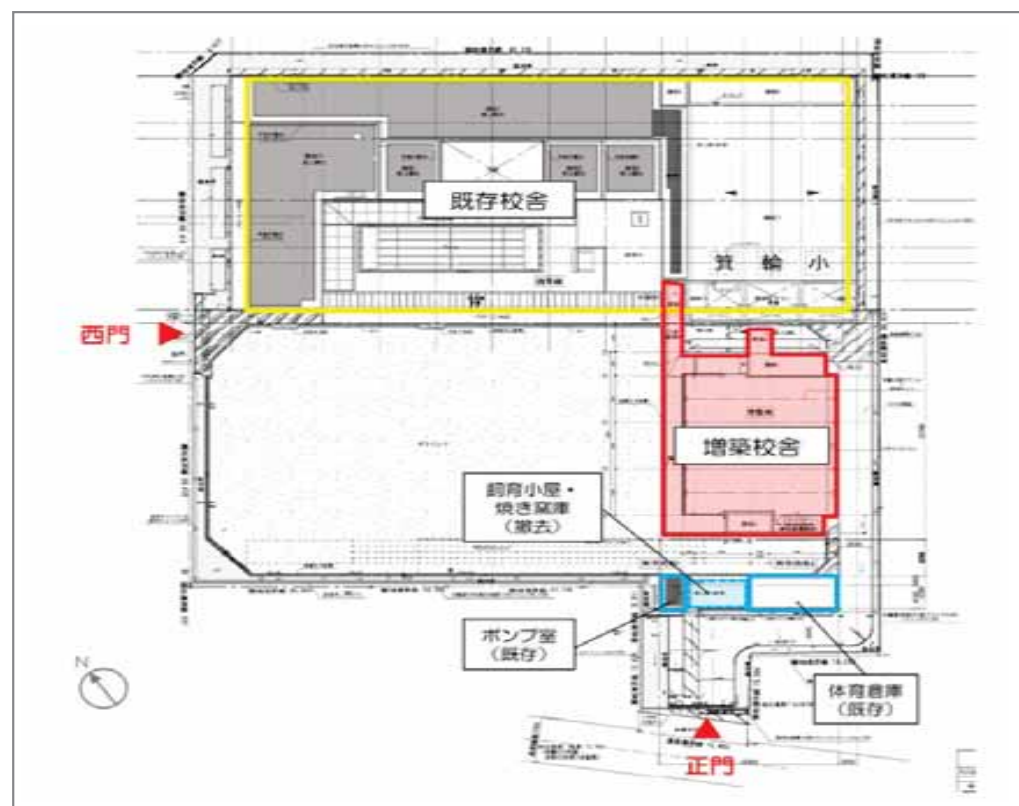
YOKOHAMA

事業期間	令和5年4月～令和9年3月（令和9年4月供用開始）
延べ床面積	2,446.80㎡ ※増築校舎のみ
構造	鉄骨造
規模	地上4階
整備諸室	18CR（一般教室12CR、特別教室4CR、 水回り教室1.5CR、地域交流室0.5CR）
事業費	19億円

対応概要

グラウンドの一部に増築校舎を建設します。
本工事期間中、及び工事後グラウンド利用可能範囲が狭くなりますが、使用可能です。
また、増築棟の屋上に約500㎡程度の広場を計画し、ボールを使った競技も可能なようにネットで覆い、使用可能とする予定です。

建物配置図



【関連重要事業の報告（審議外事項）】

箕輪小学校増築校舎の概要

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

立面図



【関連重要事業の報告（審議外事項）】

箕輪小学校増築校舎の教室数設定の根拠

単位：CR（普通教室の1クラス相当の面積を1CRとする）

	①整備水準 ※1	②既存校舎 (内部改修前)	③既存校舎 (内部改修後)	④不足 (①－③)	⑤増築内訳	⑥増築後 ※4
普通教室	46	30	42	15	12 ※4	46
個別支援教室	(7)	(5)	(5)			(7)
特別支援教室	1	0	0			1
多目的室 (水回り学習以外)	8	6	0			5
特別教室 ※2	14	10	10	4	4	14
多目的室 (水回り学習等)	1.5	1.5	0	1.5	1.5	1.5
その他 ※3	7	5	3	4	0.5	3.5

※1…普通教室はR7推計に基づいた最大の学級数、個別支援教室はR7の実数。

以降は36学級の場合の整備水準。（小学校施設整備水準に記載されている最大）

※2…理科室、音楽室、家庭科室、図工室、図書室等。今回の不足は第二理科室と第二音楽室。

※3…職員室、休養室、教材教具室、職員更衣室等の管理諸室。今回の整備は地域交流室。

※4…供用時の実際の内訳は学校との調整で決定します。

(様式5)

公共事業事後評価調書（案）

番 号	教育－4	事業担当局課	教育委員会事務局学校計画課					
事 業 名	箕輪小学校 整備事業 (旧 日吉台小学校第二方面校(仮称)整備事業)					完了年度	令和2年度	
施 工 場 所	港北区箕輪町二丁目707番					経過年数	5年	
目的及び 事業概要	1 目的 日吉台小学校の児童数増加に伴う教室不足の解消を図るため、小学校(箕輪小学校)を新たに整備しました。							
	2 事業概要 日吉台小学校は、検討当時に通学区域内における住宅開発、大規模マンションの建設が予定されていたことなどにより、児童数の急速な増加が見込まれており、事前評価実施年度である平成27年度の5年後(令和2年度)には深刻な教室不足が見込まれる状況にありました。 そのため、日吉台小学校の通学区域内にある民有地の一部(当時のマンション設計計画地の一部)を取得し、箕輪小学校を新設しました。							
	事前評価時推計 (H27)							
	日吉台小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
	児童数	615	655	683	726	749	1,088	1,180
	学級数※	19	19	20	21	23	31	35
	【箕輪小 整備概要】							
	・事業期間:平成28年4月～令和2年9月							
	・開 校:令和2年4月							
	・敷地面積:9,500㎡(建物敷地:5,949㎡+グラウンド3,551㎡)							
・延床面積:10,442.90㎡ ※学校施設のみ								
・構 造:RC造								
・規 模:地上5階建て								
・整備諸室:一般保有教室:31CR 個別支援教室・特別支援教室:3CR 特別教室:7CR								
・そ の 他:管理諸室(職員室等)、体育施設(屋内運動場、プール等)、給食室等								

	参考 【日吉台小学校 施設概要】(事前評価時) ・敷地面積:6,903 m² ・普通教室として使用可能な教室数:25CR ・個別支援教室:2CR ・その他:音楽室等の特別教室や職員室等の管理諸室、体育館、プール、給食室等			
要因の変化 ・ 事業計画の変更の経緯等	1 事前評価から事業完了時の変更点			
			事前評価	事後評価
	事業期間		平成 28 年 4 月～ 令和 2 年 2 月	平成 28 年 4 月～ 令和 2 年 9 月
	総事業費	総事業費 ①+②	約 83 億円 (うち国費 7.6 億円)	約 78 億円 (うち国費 11.1 億円)
		①用地取得費	(総事業費に計上)	約 40.5 億円
		②建設費	(総事業費に計上)	約 37.5 億円 (うち調査・設計費 1.3 億円)
		内 訳 ・ 工事費 ・ 校地整備	(総事業費に計上)	約 37.0 億円 約 0.5 億円
	建物規模		敷地面積：約 9,700 m ² 構造：RC 造	延床面積：10,442.90 m ² 建築面積：5,949 m ² 構造・階数：RC 造・地上 5 階建
	2 変更理由			
	(1) 事業期間			
箕輪小学校整備におけるその他工事の資材置き場としてグラウンド予定地を使用していたため、当初並行して行う予定であったグラウンド整備を校舍完成後に行うこととしたため。 なお、学校は予定通り令和2年4月に開校以降整地が完了するまでは体育館を活用しており、教育環境に問題は生じていません。				

	(2) 事業費																																																																																																																							
	<table><tr><td></td><td>変更の主な理由</td><td>増減額</td></tr><tr><td>電気・空調 工事</td><td>入札に伴う工事費の減</td><td>約－1.4 億円</td></tr><tr><td>実施設計</td><td>設計内容の変更に伴う減</td><td>約－0.1 億円</td></tr><tr><td>用地取得</td><td>用地取得内容の調整に伴う減</td><td>約－3.5 億円</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>約－5.0 億円</td></tr></table>		変更の主な理由	増減額	電気・空調 工事	入札に伴う工事費の減	約－1.4 億円	実施設計	設計内容の変更に伴う減	約－0.1 億円	用地取得	用地取得内容の調整に伴う減	約－3.5 億円	合計		約－5.0 億円																																																																																																								
	変更の主な理由	増減額																																																																																																																						
電気・空調 工事	入札に伴う工事費の減	約－1.4 億円																																																																																																																						
実施設計	設計内容の変更に伴う減	約－0.1 億円																																																																																																																						
用地取得	用地取得内容の調整に伴う減	約－3.5 億円																																																																																																																						
合計		約－5.0 億円																																																																																																																						
事業の効果 の発現状況 (費用便益分析 等)	1 教室不足の解消																																																																																																																							
	(1) 事前評価時点																																																																																																																							
	箕輪二丁目における大規模な住宅開発により児童・生徒の急増要因が発生し、日吉台小学校の使用可能な最大 25 教室に対して、事前評価時点(H27)では、児童推計(下記参照)より令和2年以降に教室数が不足することから、新たに日吉台小学校第二方面校（現箕輪小学校）を整備する計画としました。																																																																																																																							
	事前評価時推計（H27）																																																																																																																							
	<table><tr><td>日吉台小</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td></tr><tr><td>児童数</td><td>615</td><td>655</td><td>683</td><td>726</td><td>749</td><td>1,088</td><td>1,180</td></tr><tr><td>学級数</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>23</td><td>31</td><td>35</td></tr></table>	日吉台小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	児童数	615	655	683	726	749	1,088	1,180	学級数	19	19	20	21	23	31	35																																																																																															
	日吉台小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3																																																																																																																
	児童数	615	655	683	726	749	1,088	1,180																																																																																																																
	学級数	19	19	20	21	23	31	35																																																																																																																
	普通教室として当時使用可能な教室数：25CR H27はH27年5月1日時点の実数。H28以降はH27年度義務教育人口推計に基づく推計値。																																																																																																																							
	(2) 事後評価時点における効果の発現状況																																																																																																																							
実数でも、新設校を開校しなかった場合は令和2年時点で日吉台小学校の使用可能な教室数を超える児童数となりましたが(表最下段)、令和2年に新設校が開校したため、日吉台小学校での教室不足は発生していません。																																																																																																																								
令和7年5月1日までの実数値（各年5月1日現在実数値）																																																																																																																								
<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="6">新設校開校</td></tr><tr><td>日吉台小</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>児童数</td><td>615</td><td>602</td><td>643</td><td>707</td><td>717</td><td>509</td><td>510</td><td>530</td><td>500</td><td>482</td><td>488</td></tr><tr><td>学級数</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>20</td><td>21</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td></tr><tr><td>箕輪小</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>児童数</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>584</td><td>726</td><td>902</td><td>1,007</td><td>1,113</td><td>1,191</td></tr><tr><td>学級数</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>19</td><td>23</td><td>28</td><td>32</td><td>35</td><td>37</td></tr><tr><td>日吉台小 + 箕輪小</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>児童数</td><td>615</td><td>602</td><td>643</td><td>707</td><td>717</td><td>1,093</td><td>1,236</td><td>1,432</td><td>1,507</td><td>1,595</td><td>1,679</td></tr><tr><td>学級数</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>20</td><td>21</td><td>31</td><td>35</td><td>42</td><td>44</td><td>47</td><td>51</td></tr></table>							新設校開校						日吉台小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	児童数	615	602	643	707	717	509	510	530	500	482	488	学級数	19	19	20	20	21	18	18	18	18	18	18	箕輪小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	児童数	－	－	－	－	－	584	726	902	1,007	1,113	1,191	学級数	－	－	－	－	－	19	23	28	32	35	37	日吉台小 + 箕輪小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	児童数	615	602	643	707	717	1,093	1,236	1,432	1,507	1,595	1,679	学級数	19	19	20	20	21	31	35	42	44	47	51
						新設校開校																																																																																																																		
日吉台小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																													
児童数	615	602	643	707	717	509	510	530	500	482	488																																																																																																													
学級数	19	19	20	20	21	18	18	18	18	18	18																																																																																																													
箕輪小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																													
児童数	－	－	－	－	－	584	726	902	1,007	1,113	1,191																																																																																																													
学級数	－	－	－	－	－	19	23	28	32	35	37																																																																																																													
日吉台小 + 箕輪小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																													
児童数	615	602	643	707	717	1,093	1,236	1,432	1,507	1,595	1,679																																																																																																													
学級数	19	19	20	20	21	31	35	42	44	47	51																																																																																																													

	2 施設面 (1) 安全・安心・安定性・快適性 日吉台小学校の通学区域内における大規模住宅開発は令和2年に入居が始まりましたが、その時点で見込まれた教室数不足等の危機的な状況は回避しました。 大規模校として運営の困難さを解消するため、明快な動線計画、死角の無い直線廊下、昇降口を分散配置など、混雑を緩和し、限られた敷地で安全・安心に配慮したコンパクトで整形な平面計画としました。 (2) 将来の用途変更への対応 将来用途変更を行う予定はありません。 (3) プール施設等の合理化 事業開始当初から合理化等については検討していません。 (4) コスト縮減への取り組み ガラスを複層ガラスとし、断熱性能の向上、暖房負荷の軽減を図ることでランニングコストを低減(640,000 円/年)しました。また、光庭を活用した自然通風、自然換気を利用し、冷暖房使用を短縮しイニシャルコストを低減します。 3 地域面 地域交流室や放課後キッズクラブのための部屋を整備しました。 4 防災面 (1) 地域防災計画での位置づけ 箕輪小学校は地域防災拠点として指定されています。 (2) 浸水想定状況 津波による浸水予測の区域ではありません。 洪水、内水、高潮の浸水予測はそれぞれ 0.5～3m、2～20 cm、0～3mです。 なお、屋外付帯施設として、雨水貯留槽を設置し浸水対策を行っています。 (3) 土砂災害特別警戒区域指定の有無 土砂災害特別警戒区域の指定はされていません。 5 環境への配慮 (1) 緑化率を 35%とし、敷地周囲及び屋上緑化を施すことでヒートアイランド抑制に寄与します。
--	--

	(2)建物における環境配慮・横浜市公共建築物環境配慮基準に準拠することで、環境負荷が軽減されます。(CASBEEの結果よりライフサイクル CO2 排出量 13%削減) ・壁やロッカーなどの木質化、照明器具の LED 化、高効率空調設備の導入、PPA 事業を見込んだ設備配置等を実施しました。 (校舎棟 BEI(※1)=0.35≦0.6(設計時)、CASBEE 横浜Aランク(CO2 排出量 24%削減)) ※1 BEI:建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に基づき定められた建築物エネルギー消費性能基準で、基準建築物と比較した時の設計建物の一次エネルギー消費量の比率。横浜市の公共建築物における環境配慮基準(R7 改正)では BEI≦0.6。 ・「横浜市の公共建築物における木材利用の促進に関する方針」に基づき、イニシャルコスト・維持管理コストに配慮したうえで、積極的に木質化を図りました。・木材利用を積極的に促進し、県産・地域産木材の流通材利用、内装材、家具などに使用を検討しました。
その他 (事前評価)	平成 27 年度第 2 回委員会において事前評価を実施しました。意見具申なしで事業実施について「妥当」との評価結果をいただきました。
対応方針 (案)	当初の目的である日吉台小学校の教室不足は解消されました。 改善措置は特にありません。
今後に向けた検討項目 ・ 改善点	施設整備にあたっては、義務教育人口推計の推移を見ながら検討しているところですが、近年、駅前などの利便性の良い土地に限らず、北部、臨海部における工場や事業所の撤退等による土地利用転換に伴い、一部地域において集中的に人口が増加している状況があります。 また、従来子育て世帯が入らないだろうと想定していた間取りに子育て世帯が入ってくるケースが見られ、以前とは需要状況に変化が見られます。 そのため、開発の増加分として見込んでいた数字が上振れし、ハード面で対応しなければならない状況も発生しています。 このような状況を踏まえ、推計値の精度をあげるため、推計値に反映する児童・生徒出現率（急増要因出現率）の算出方法を見直しました。見直しの方法としては、近年の集合住宅の購入層の属性等について既存データ・文献等から情報を収集し、地域ごとの児童・生徒数の推移について検討・検証を実施しました。 新たな算出方法を活用しながら今後も集計結果を適宜検証し、児童・生徒にとって最適な教育環境の提供に努めてまいります。
添付資料	無